

【テーマ1】 多彩な都市の魅力があふれ、楽しく過ごせる大阪

めざす方向

◎「大阪都市魅力創造戦略 2020」に基づき、「世界中から人、モノ、投資等を呼び込む『強い大阪』」、「世界に存在感を示す『大阪』」の実現をめざします。

(中長期の目標・指標)

※大阪都市魅力創造戦略 2020 に掲げた主指標 (平成 32 年度までにめざす目標)

- ・来阪外国人旅行者数 1,300 万人
- ・来阪外国人旅行消費額 1 兆 1,900 億円
- ・国際会議開催件数 340 件
- ・延べ宿泊者数 3,600 万人
- ・府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合 40%
- ・文化的環境が整備されていると思う府民の割合 40%
- ・大阪にゆかりのあるプロスポーツ7チームの年間主催試合での観客者合計数 360 万人
- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率 50%
- ・大阪で学ぶ留学生数 平成 32 年度：23,000 人、大阪で働く外国人労働者数 平成 32 年度：61,000 人

大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（H31.3月末時点）＞
<p>■ 世界第一級の文化・観光拠点形成・発信</p> <p>◆ 水と光のまちづくりの推進</p> <p>・公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム(*1)」による水辺・水上の魅力創出・にぎわいづくりの推進</p> <p>○水辺のにぎわいづくり等水都の魅力を結集し、その魅力を発信するイベントを実施</p> <p>○水の回廊を中心とした水辺拠点等をつなぐクルーズの開発や魅力ある舟運の創出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">(スケジュール)</div> <p>通年 舟運事業者・関係者とのネットワーク形成、強化</p> <p>30年10月「水都大阪フェス」の実施</p> <p>・水の回廊のポテンシャルの強化に向け、ICT等の新しい技術を活用した舟運利用者の利便性の向上や、安全安心な舟運の仕組みづくりの調査を実施</p>	<p>◇ 活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水都大阪フェス」を実施 ・舟運創造事業を実施（定期航路化に向けた環境整備等） ・乗船予約や、安全安心な運航等を支える新たな仕組みづくり ・大阪城港に公共船着場を整備するため、測量・土質調査と基本・詳細設計を実施 <p>◇ 成果指標（アウトカム） (定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水都大阪のさらなる「成長」の促進 	<p>○「水都大阪フェス 2018(10月20日・21日)」を開催。中之島公園芝生広場にブースやステージを設置し、音楽ライブなどを実施する「水都パーク」と、川沿いを船や遊歩道で巡るスタンプラリー「水都クエスト」を実施(来場者約45,000人、うち水都クエスト参加者約5,000人)</p> <p>○シンボルツリーの植樹にあわせ、シンボルツリーと夜景を巡るナイトクルーズ(12月)などを実施</p> <p>○さらなる舟運の活性化に重要となるクルーズの安全運航等の実現のために、航行量の把握や課題などの調査を実施(10月～3月)</p> <p>○「河川水上交通の振興と安全に関する協議会」において、舟運の安全・安心のほか、水辺・水上の魅力向</p>

<p>(スケジュール)</p> <p>30年6月 プロポーザルによる事業者公募・決定 30年7月～ 事業開始(調査実施)</p> <p>・観光拠点である大阪城公園内における公共船着場の整備に向けて、調査等を行う</p>	<p>(数値目標)</p> <p>・舟運利用者数：125万人 (平成29年度：実績120万人)</p>	<p>上・にぎわい創出の審議を目的に加え、関係者として新たに参画(8月～)</p> <p>○大阪城港に公共船着場等を整備するため、測量調査と基本設計を実施(9月～3月)</p> <p>・舟運利用者数：123万人(見込み)</p>
<p>(スケジュール)</p> <p>30年4月～ 関係機関調整 30年7月～ 入札手続き 30年9月～ 測量・土質調査、基本・詳細設計</p>		
<p>◆万博記念公園の魅力創出(50周年含む)</p> <p>・2020年に迎える大阪万博50周年に向けた取組みを進める</p> <p>・万博記念公園駅南側及び旧大阪府立国際児童文学館の事業者誘致に向けた取組みを進める</p> <p>・入場者数増加に向けた取組みの推進 園内事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開等の取組みを進める</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <p>・大阪万博50周年(2020年3月～)に向けた機運の醸成</p> <p>・万博記念公園駅南側の活用方針の策定</p> <p>・旧大阪府立国際児童文学館の事業者誘致</p> <p>・事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開</p> <p>◇成果指標(アウトカム) (定性的な目標)</p> <p>・万博50周年に向けた機運醸成や公園駅南側の事業者誘致に向けた取組み等により、公園の魅力創出を図る。</p> <p>(数値目標)</p> <p>・自然文化園の入場者数：260万人以上 (平成29年度：225万人)</p>	<p>○大阪万博50周年に向けては、EXPO'70パビリオン別館の設置や特別展覧会の開催について検討を進めた</p> <p>また、太陽の塔に各国在京大使70名を案内(6,7月)したほか、あべのハルカス美術館での展示会に協力するなど、万博記念公園の周知にも努めた</p> <p>○万博記念公園駅前周辺地区の活用方針の策定に向けた検討を進めた</p> <p>○旧大阪府立国際児童文学館の事業者誘致の公募を開始(3月)</p> <p>・自然文化園入場者数：約239万人 (平成30年3月末現在、対前年比14万人増)</p>
<p>◆百舌鳥・古市古墳群(*2)の魅力創出</p> <p>・平成30年1月に、世界文化遺産としてユネスコに推薦された「百舌鳥・古市古墳群」について、イコモス(*3)審査の対応等、平成31年の世界文化遺産登録の実現に向けた取組みを進める</p>	<p>◇成果指標(アウトカム) (定性的な目標)</p> <p>・平成31年度の世界文化遺産登録をめざす</p>	<p>○イコモス審査について文化庁・宮内庁をはじめ地元3市と連携し、現地調査(9月)においては、調査員に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産にふさわしいということをお伝えするなど、対応した</p>

(スケジュール)

30年 9月頃 イコモス現地調査
 30年 12月頃 イコモスパネル(*4)
 31年 5月頃 イコモスからユネスコへの勧告
 31年 7月頃 世界遺産登録の可否

◆大阪観光局の活動支援による戦略的な観光集客

・大阪観光局が実施する国内外での戦略的なプロモーション、Wi-Fi 環境の整備推進、観光情報の発信等、集客促進に向けた活動を支援
 また、国の地方創生推進交付金を活用して、観光データ収集、マーケティング強化を行うとともに、市町村事業との連携を図る等、「大阪版 DMO (*5)」としての機能強化を推進し、戦略的に観光集客を促進

(スケジュール)

通年 プロモーション活動の実施、Wi-Fi 環境の整備、マーケティング活動の推進等

◆MICE (*6) 誘致の推進

・「大阪における MICE 推進方針 (平成 29 年 3 月)」に基づき、大阪経済活性化につなげていくため、大阪市・経済団体・大阪観光局とともに、戦略的に MICE 誘致を推進

◇活動指標 (アウトプット)

・国内外プロモーションの実施、観光案内機能の充実、戦略的マーケティング調査の実施

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)
 ・国内外からの観光集客の一層の促進を図る

(数値目標)

・来阪外国人旅行者数：1,181 万人
 (平成 29 年度：1,111 万人)
 ・延べ来阪宿泊者数：3,392 万人
 (平成 29 年度：3,270 万人)

◇活動指標 (アウトプット)

・MICE 推進委員会の開催とともに、MICE 誘致推進に向けた関係機関によるネットワーク強化

○機運醸成を図るため、オリジナルフレーム切手の発売 (8 月)、りそな銀行 A T M 画面を活用した P R (12 月)、J R 大阪駅における P R イベント (1 月・参加者数約 1,700 名) 等、民間企業や団体等との連携事業 (29 件) を実施

○「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を応援する府民会議」とシンポジウム (3 月・参加者数約 400 名) を共催

○百舌鳥・古市古墳群の価値を伝えるため、市町村の住民や、府内の中高生を対象とした世界遺産学習会 (12 件) を実施

○大阪観光局において、マーケティングリサーチに基づく国内外でのプロモーションの実施や HP・SNS・ガイドブック等による観光情報の提供、市町村との連携など、大阪への集客の取組みを実施した。また、大阪府北部地震 (6 月) や台風 21 号 (9 月) の際には、交通機関や復興の状況等の情報発信の取組みを実施した

・来阪外国人旅行者数 (1-12 月)
 1,142 万人 (対前年比 102.8%)
 ・延べ宿泊者数 (1-12 月)
 3,576 万人 (対前年比 107.7%)

○MICE 推進委員会において、今後の誘致対象とする案件として、IEEE (米国電気電子技術者協会) などをターゲットとし、誘致活動を実施した

<p>(スケジュール)</p> <p>通年 他の関係機関との連携のもと、MICE 誘致活動を推進</p> <p>30年8月頃 MICE 推進委員会の開催</p> <p>31年1月頃 MICE 推進委員会の開催</p>	<p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MICE を通じて、多彩な人が訪れ、集い、交流する活気あふれる都市をめざす <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議開催件数：303 件 (JNTO 基準) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪駅周辺やベイエリアなどの MICE 施設を核とした地域間の連携について協議を進めた ○誘致に成功したツーリズム EXPO ジャパン 2019 について、地元連絡協議会等に参画し、開催に向けた協議を行った <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議開催件数：251 件 (29 年実績) ※平成 30 年実績は、9 月公表予定
<p>■多様な観光資源の発掘・発信</p> <p>◆国内外の人々を惹きつけるキラコンテンツの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪のメインストリートである御堂筋を集客装置として活用して、非日常的なオンリーワンコンテンツを通じて大阪の魅力を国内外に発信し、多くの方に大阪を訪問していただくための起爆剤となるイベントを実施 <p>(スケジュール)</p> <p>30年11月4日 御堂筋オータムパーティー2018の実施</p> <p>◆ナイトカルチャーの発掘・創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「御堂筋イルミネーション 2018」と「OSAKA 光のルネサンス 2018」をコアプログラムとして、民間等の実施する光のプログラムと連携して、インパクトある様々な光空間を演出する「大阪・光の饗宴 2018(*7)」を実施 ・夜間公演等に積極的に取り組む事業者に対して、事業の立ち上げ等に必要な経費を支援 	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御堂筋オータムパーティー2018 の実施 <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信 <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 90 回以上 (平成 29 年度：88 回) うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 30 回以上 (平成 29 年度：28 回) ・Web 掲載回数 600 回以上 (平成 29 年度：560 回) <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御堂筋イルミネーションについて、イチョウ並木を中心にインパクトあるイルミネーションを施した「大阪・光の饗宴 2018」の実施 ・夜間公演等の事業の立ち上げや継続に向けた取組みに対し、補助を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○トップアーティストによる音楽ライブやリアルな恐竜を御堂筋に登場させるパフォーマンスなど、これまでにない企画と多彩なキャストによる 1 日限りの豪華共演「御堂筋ランウェイ」を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 84 回 うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 34 回 ・Web 掲載回数 824 回 <p><大阪・光の饗宴></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「大阪・光の饗宴 2018」を平成 30 年 11 月 4 日から平成 31 年 1 月 31 日まで過去最高の 89 日間開催 ○「御堂筋イルミネーション 2018」については、11 月 4 日から 12 月 31 日まで開催

<p>(スケジュール) 30年 5月中 補助対象事業の決定 30年 11月4日～31年1月31日 「大阪・光の饗宴 2018」の実施 (30年 11月4日～31年 12月31日 「御堂筋イルミネーション 2018」の実施)</p>	<p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・インパクトある光空間を演出し、国内外からの更なる誘客につなげる ・夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出</p> <p>(数値目標) ・大阪・光の饗宴全体の来場者数 1,400 万人以上 (平成 29 年度：1,367 万人) ・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数をさらに拡大：20 団体(平成 29 年度：19 団体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・御堂筋を光の川に見立て「流れる光」を演出 ・北御堂で参加型プロジェクトマップングを実施 ・御堂筋イルミネーションの来場者数 約 520 万人 <p>○「大阪・光の饗宴 2018」に 19 団体（民間等による光のプログラム団体）が参加しコアプログラムと連携（大阪市以外のエリアからの参加が今年の 6 団体から 10 団体に拡大）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪・光の饗宴全体の来場者数 約 1,709 万人 (前年比 約 342 万人増) ・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数 19 団体（前年同数） <p style="text-align: right;"><参考> 経済波及効果 約 855 億円 (前年比 約 182 億円増)</p> <p><ナイトカルチャー発掘・創出事業></p> <p>○夜間公演等に取り組む事業者を支援する「大阪府ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金」は新規 4 事業、継続 6 事業に対して、補助事業を実施した</p>
<p>◆大阪ミュージアム(*8)の推進 ・大阪ミュージアム登録物を利用して地域魅力を府内外に発信するとともに SNS やホームページ等による認知度を更に向上させる また、府域への集客・回遊を促す事業を展開する「地域魅力発信事業」を実施</p> <p>(スケジュール) 30年 5月中旬 プロポーザルによる事業者選定 30年 6月上旬 事業開始 31年 3月末 事業終了</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット) ・恒常的なまち魅力向上支援事業による市町村の観光資源の整備に対し、補助を実施 ・「地域魅力発信事業」による雑誌等への大阪の魅力の掲載 ・民間のイベントとの連携（ウォーキングイベント、イルミネーションフォトコンテスト、大阪割烹体験） ・民間イベントによる大阪の魅力発信（音楽イベントでの PR 等）</p> <p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・府内外への大阪の魅力発信、集客・周遊の向上</p>	<p>○地域資源の磨き上げを支援する「恒常的なまちの魅力向上支援事業補助金」の公募を行い、2 団体に対して補助金の交付を行った</p> <p>○テーマに沿って多言語で地域魅力を紹介する冊子「DISCOVER OSAKA」を作成し、観光案内所・主要駅・ホテル等で観光客に向けて配布（30,000 部）</p> <p>○インスタグラムを用いた写真投稿キャンペーンを実施 (キャンペーンの延べ投稿件数：2,752 件、 " 「いいね！」数：218,796 件)</p> <p>○民間のイベントとの連携 ・箕面ウォーキングツアー（参加人数 92 名、参加者満</p>

<p>◆観光振興施策の充実に向けた宿泊実態調査</p> <p>・大阪の宿泊実態を調査・把握すること等により、今後の宿泊税制度や観光振興施策のあり方の検討につなげる</p> <p>(スケジュール)</p> <p>30年 5月 調査実施 30年 6月 調査回収、中間報告 30年 7月 結果集計、報告書作成</p>	<p>(数値目標)</p> <p>・参加者満足度：90%以上（平成29年度：91%）</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・大阪の宿泊実態を把握するため、宿泊施設を対象とした調査を実施</p>	<p>足度 91%）</p> <p>・チャリティー歴史&健康ウォーキング（参加者人数 1,284名、参加者満足度 87%）</p> <p>・イルミネーションフォトコンテスト</p> <p>・割烹体験イベント</p> <p>○府内の全ての宿泊施設（2,439施設）に対して調査を実施し、511施設より回答を得て、結果のとりまとめを行った（8月）</p> <p>○この結果を踏まえ、「大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議」の議論・答申を受けて、「宿泊税条例」を改正し、本年6月（予定）、免税点を現在の1万円から7千円に引き下げる</p>
--	--	---

文化・スポーツを活かした都市魅力の創出

<p><今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）></p>	<p><何をどのような状態にするか（目標）></p>	<p><進捗状況（H31.3月末時点）></p>
<p>■国際的なスポーツイベントの開催</p> <p>◆ラグビーワールドカップ 2019(*9)の開催準備</p> <p>・東大阪市花園ラグビー場をはじめ全国12会場で行われる本大会まであと1年半となり、大会成功に向け、プロモーション活動による一層の機運醸成及び認知度向上を図るとともに、スポーツの街「大阪」を内外にアピールするため、広報・啓発事業を展開する</p> <p>また、本年10月に予定される花園ラグビー場でのテスト試合（日本代表戦）を通じて、大会運営の課題を検討し、本番に向けた準備を東大阪市と進めていく</p> <p>(スケジュール)</p> <p>通 年</p> <p><広報・普及啓発事業></p> <p>ボランティア募集、大会開催1年前イベント、トロフィーツアー等の時期に重点的に広報・普及啓発を展開するとともに、年間通じたプロモーションを行う</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・トップリーグ試合会場等でのプロモーション活動：30回（平成29年度：27回）</p> <p>・大会本番を想定したテスト試合（日本代表戦）及びファンゾーン等の試行実施により課題を検証</p> <p>・大会運営の課題についての対応方策の具体化</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>(数値目標)</p> <p>・府民のラグビーワールドカップ開催の認知度：75%以上（平成29年度：65.2%）</p>	<p>○機会を捉えプロモーション活動等を実施</p> <p>・ラグビートップリーグの試合会場等でのプロモーション活動（32回）</p> <p>・スポーツ等その他イベントでのPRプロモーション活動（80件）</p> <p>・大会開催500日前PRイベント（5/8）、優勝トロフィーの展示をはじめとした大会告知PR活動（10/20・21）</p> <p>・ラグビーワールドカップ2019開催都市特別サポーター（大阪・東大阪）就任式（9/18）</p> <p>・東大阪市花園ラグビー場改修後初めての試合となる日本代表戦に合わせた会場周辺でのPRイベント（10/26）</p> <p>・カウントダウンボード設置（府内10か所）（11月）</p> <p>・主要ターミナル等における大会PR装飾設置（3月）</p>

<大会運営の課題検討>

昨年度策定の交通輸送、ファンゾーン運営計画の実施に向けた調整。また新たに警備、医療等にかかる体制整備を図る

30年10月

テスト試合（日本代表戦）の開催に伴う大会本番を想定したファンゾーン等の試行実施

◆オリンピック・パラリンピックのホストタウン(*10)登録の推進等（フラッグツアー）

・東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成や国際交流、府民のスポーツへの関心や大阪の世界的な知名度の向上を図るため、引き続き、ホストタウン登録に係る市町村の取組みや、既登録の市町村の具体的な活動を支援する

また、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会等の要請に応じ、フラッグツアー(*11)の歓迎行事や、市町村等巡回展示を行う

(スケジュール)

<ホストタウン>

通年

・登録希望市町村の活動支援（市町村に応じた競技団体や在関西領事館等への働きかけ等）

・既登録の市町村への活動支援（既登録市町村間の情報交換の場の設定、全国のホストタウン事業の紹介等）

<フラッグツアー>

30年5～11月 フラッグツアー準備調整

30年11～12月 フラッグツアー歓迎行事、市町村等巡回展示の実施

◇活動指標（アウトプット）

- ・ホストタウン登録に係る市町村の取組の支援件数：20件
- ・既登録市町村間の情報交換の場の設定
- ・フラッグツアー歓迎行事及び、市町村等巡回展示の実施

◇成果指標（アウトカム）

- （定性的な目標）
- ・ホストタウン登録の追加

○大会本番を想定したテスト試合により、シャトルバスの誘導、周知等の課題を検証し、交通輸送実施計画内に反映した

○ファンゾーン運営計画の策定に向け東大阪市等関係機関と調整するとともに、新たに警備・医療等にかかる体制整備計画の策定を行った

○府民のラグビーワールドカップ開催の認知度：72.0%

- ホストタウン登録に係る市町村の取組みの支援件数20件
 - ・他府県の取組み等の情報提供件数（13件）
 - ・事前キャンプ誘致支援件数（5件）
 - ・登録希望のある市町村と相手国との調整（1件）
 - ・府内市町村国際業務担当者会議で取組み周知（1件）

- ※ホストタウンの登録について（7市、9つの国や地域）
 - ・新規登録（3件）
 - 茨木市（オーストラリア）【第7次登録（4月）】
 - 貝塚市（台湾）【第9次登録（8月）】
 - 高槻市（オーストラリア）【第12次登録（2月）】
 - ・追加登録（1件）
 - 池田市（フランス）【第12次登録（2月）】
 - ・既登録
 - 大阪市（オーストラリア）、泉佐野市（ウガンダ、モンゴル）、箕面市（ニュージーランド）、池田市（ロシア）

○既登録7市の情報集約とともに、市町村との個別対応による情報交換の実施

○フラッグツアー（11月30日～12月28日）の実施

◆ワールドマスターズゲームズ 2021 関西(*12)の開催準備

・大会の認知度向上、機運の醸成を図るとともに、平成 33 年 5 月の開催に向けた準備を府内開催 3 市（岸和田市、東大阪市、泉南市）と連携しながら進める

(スケジュール)

通 年 府関係イベント等での P R
インターネット等による情報発信
30 年 8 月 1000 日前イベント

◇活動指標（アウトプット）

・イベント等での P R：昨年度以上
（平成 29 年度：91 回）
・1000 日前イベント（組織委員会・府・政令市と連携した協働イベント）の実施

◇成果指標（アウトカム）

（数値目標）
・府民のワールドマスターズゲームズ 2021 関西の府民認知度：40%以上（平成 29 年度：21.8%）

・巡回展示

21 箇所（正庁の間、ファインプラザ大阪等府立施設及び 18 市町村立施設）

・小中学校訪問イベント（12 月 20 日）
泉佐野市立佐野台小学校にて実施

○プロスポーツチームの公式戦や府民スポーツ・レクリエーション事業等のイベントにおいて、リーフレット等の広報物により PR（62 回）

○大会開幕 1000 日前を迎えることを契機に、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西決起大会」の開催協力（8 月 24 日）

※1000 日前イベントは、台風により中止（組織委員会が決定）

○ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の府民認知度は、22.5%（1 月時点）

■スポーツ都市大阪の魅力発信

◆大阪にゆかりのある主なスポーツチーム連携

・大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携して都市魅力の発信につなげるための取組みを推進する

(スケジュール)

通 年 大阪にゆかりのある主なスポーツチームによる連携事業の検討及び実施（各チームのホームゲームでのイベントの実施等）

◇活動指標（アウトプット）

・大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携したイベントの実施：延べ 10 回以上（平成 29 年度：延べ 9 回）

◇成果指標（アウトカム）

（数値目標）
・大阪にゆかりのある主なスポーツチーム 7 チームの年間主催試合での観客者合計数：320 万人
（平成 29 年度：280 万人）

○オリックス・バファローズ、阪神タイガース、セレッソ大阪、ガンバ大阪、大阪エヴェッサ、FC 大阪、日本生命レッドエルフと連携し、公式戦会場等においてスポーツを通じて大阪の都市魅力を PR（延べ 10 回）

その他、大阪国際女子マラソン、大相撲なにわ場所等の表彰式で大阪の伝統工芸品等の大阪産品の PR（贈呈）

○大阪にゆかりのあるスポーツチーム 7 チームの年間主催試合での観客者合計数は約 285 万人

<p>◆第8回大阪マラソン(*13)の開催（新コースの検討含む）</p> <p>・御堂筋、道頓堀、中之島、通天閣周辺等、大阪のランドマークを32,000人のランナーが駆け巡る国内最大級の都市型市民マラソン「第8回大阪マラソン」を開催する また、より一層魅力的な大会とするため、第9回大会（平成31年度）に向け、大阪市中心部をゴールとするコース変更を検討し決定する</p> <p>（スケジュール）</p> <p>30年4月 第8回大会ランナー募集開始 30年6月 公式プレイベント「大阪マラソンシーズントライアル2018 10K&ファンラン」開催 第24回大阪マラソン組織委員会開催（新コース概要公表） 30年11月 大阪マラソンEXPO2018開催 公式プレイベント「大阪マラソンシーズントライアル2018 ハッピーモーニングラン」開催 第8回大阪マラソン開催 31年2月 第26回大阪マラソン組織委員会開催（新コース詳細公表）</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・第8回大阪マラソンの開催（11月25日） ・新コース詳細公表（第26回大阪マラソン組織委員会開催）</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （数値目標）</p> <p>・参加申込者：昨年度以上（平成29年度：130,417人、うち海外13,962人） ・参加ランナー満足度：昨年度並（平成29年度：国内97.1%、国外99.0%） ・沿道観客者数：昨年度並（平成29年度：130万人）</p>	<p>○第8回大阪マラソンの開催（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪マラソン参加申込者数 127,757人（うち国外からの申込者数15,005人【過去最高】） 大阪マラソン EXPO やチャリティ親子ランなど様々なイベントを展開し、元気あふれる大阪を世界に発信 一般参加ランナー満足度 97.2% 国外参加ランナー満足度 98.2% 沿道観客 130万人 <p>○新コース詳細公表（2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第9回大阪マラソン「大会要項」公表
<p>■オリンピック・パラリンピック等の開催を契機としたレガシーの形成</p> <p>◆オリンピック・パラリンピアンへの派遣</p> <p>・スポーツの素晴らしさや感動を伝えるとともに、スポーツマンシップ等への理解を深め、将来のスポーツ振興、人材養成につなげていくため、これまでの小学校に加えてスポーツイベント等にオリンピック・パラリンピックの出場経験者を派遣する</p> <p>（スケジュール）</p> <p>30年4～6月 派遣先の募集・決定 オリンピック・パラリンピアンとの調整等 30年7月～ 派遣</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・オリンピック・パラリンピアン等の学校等スポーツイベントへの派遣：10回程度</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （数値目標）</p> <p>・運動・スポーツに興味・関心を持った参加者の割合：昨年度以上（平成29年度：76%）</p>	<p>○オリンピック・パラリンピアンを小学校や府内のスポーツ大会等に派遣 8回（競泳、アーティステックスイミング、バドミントン、ソフトボール、アーチェリー、ウェルチエアラグビー）</p> <p>○アンケートを実施した参加者のうち、運動・スポーツに興味・関心を持った割合 98%</p>

■大阪の文化・食の魅力発信

◆大阪文化芸術フェスの開催

・大阪の都市魅力を創造していくため、国内外の文化コンテンツを一堂に集めたフェスティバルを実施し、文化を楽しむ機会を創出するとともに、府内全域に多くの観光客を呼び込む
あわせて、大阪文化の魅力を発信し、国際エンターテインメント都市の実現と、大阪の都市格の向上を目指す

(スケジュール)

開催期間 30年9月29日～11月4日

◆食でおもてなし・多言語メニュー作成支援

・飲食店のための多言語メニュー作成支援システム「TASTE OSAKA」の普及を図り、多言語メニュー設置店を増やすことで、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える

(スケジュール)

30年 4月 旅行者向けサイト開設
30年5～9月 飲食店向けセミナーをはじめとする普及啓発

◆アーツカウンシル(*14)を通じた文化施策の向上

・大阪府市文化振興会議が、平成29年11月に取りまとめた「大阪アーツカウンシルのあり方について」に基づき、引き続き「評価・審査」を中心としつつ、「調査」や「企画」の取組を強化していく

(スケジュール)

◇活動指標 (アウトプット)

・伝統芸能、演劇、音楽等、府内外のコンテンツを一堂に集め、万博記念公園をはじめ、府内全域で各種公演等を集中的に実施する

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)
・多彩で豊かな文化資源をもとに、新たなチャレンジにより文化が創造され、また、多様な文化を受容することで、都市魅力を高め、国内外から多くの人々をひきつける都市を目指す

◇活動指標 (アウトプット)

・「TASTE OSAKA」の普及啓発に向けた飲食店向けセミナー等の実施

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)
・利用登録店舗の増加を図り、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える

(数値目標)

・府内飲食店のシステム登録数：2,500件

◇活動指標 (アウトプット)

・府補助事業の評価：33件 (平成29年度：33件)
・効果的な担い手支援方策等、新たな企画提案を行うための調査や意見交換会の実施

◇成果指標 (アウトカム)

○9月29日から11月4日までの約1か月間、万博記念公園をはじめ、府内の各会場で上方伝統芸能や上方演芸、ファッションショー、コンサート、アート作品展等の多彩なプログラムを実施した

○実施に当たっては、府、市、経済界等で構成する「大阪文化芸術フェス実行委員会」や在阪放送局9社と連携し事業を展開
・主催・共催プログラム 18件、46公演
・連携プログラム 19件、19公演
・参加者総数 43.8万人
・経済波及効果額 19.7億円

○広報啓発に加え、年度途中から利用者登録の促進の取組みを強化したものの、飲食店のシステム登録数は1,307件(3月)になった

○府の文化事業や補助事業の評価・審査に向けて、現地視察やヒアリングを実施(延べ76回)
・府補助事業の評価：33件 (アーツカウンシル部会：11回開催)

○文化施策の今後の展開に向けた企画提案のための調

<p>評価・審査等を随時実施 アーツカウンシル部会を月 1 回程度開催</p> <p>◆上方演芸資料館「ワッハ上方(*15)」の運営とリニューアルによる上方演芸の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方演芸の魅力をこれまで以上に広く発信し、伝えていくため、現施設を改修し、府民はもとより、国内外の観光客にも上方演芸に触れ、楽しみ、その魅力を体験できる施設をめざす また、引き続き、館外展示を実施する <p>(スケジュール)</p> <table border="0"> <tr> <td>30年 4月～11月</td> <td>事業企画・設計</td> </tr> <tr> <td>30年 11月～31年 2月</td> <td>工事</td> </tr> <tr> <td>30年 12月～31年 3月</td> <td>休館</td> </tr> <tr> <td>31年 4月</td> <td>リニューアルオープン</td> </tr> </table> <p>◆江之子島文化芸術創造センター「enoco(*16)」の魅力向上と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府の収蔵作品の活用（展示・貸出し）をはじめ、クリエイター等への交流の場の提供や、アートやデザインを活用した地域課題の解決のための支援を行うことで、引き続き文化創造拠点としての館の魅力向上に努める 加えて、ワークショップや体験講座等を年間通じて実施することで、館の利用促進を図る 	30年 4月～11月	事業企画・設計	30年 11月～31年 2月	工事	30年 12月～31年 3月	休館	31年 4月	リニューアルオープン	<p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場視察や事業者へのヒアリング内容をより充実させる等、細かなレベルでの取組を強化することにより、芸術文化の担い手を支援する等、大阪の文化力の更なる向上のための取組みにつなげる <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルオープン (31年 4月) ・館外展示の実施：3箇所 (平成 29 年度：3 箇所) <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワッハ上方を活かし、大阪人のアイデンティティの一つである「笑い」をはじめとする上方演芸の文化を守り、継承していく <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵作品を活用した展覧会の開催：年 3 回以上 (平成 29 年度：3 回) ・大阪文化芸術フェスとの連携事業の実施 ・地下のフリースペースを活用した交流事業等の実施 (2 回以上) ・ワークショップ等の実施 (年 8 回以上) (主に子どもや親子を中心としたプログラムを強化) 	<p>査や意見交換等を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府内における公立文化施設等にかかる調査 ・第一回大阪芸術文化交流シンポジウム <p>○現施設の改修については、収蔵庫の咲洲庁舎への移設を完了 (7月)</p> <p>○リニューアル後の事業展開等を検討し、4月 24 日のオープンに向けて準備を行っている (資料の常設・企画展示のほか、映像等を使って「笑い」が体験できるコーナーを設置予定)</p> <p>○館外展示については、大阪文化芸術フェス開催期間中に「上方演芸って」と題し、落語・浪曲の小道具や歴史の解説などを展示 (2 箇所) 〔大阪工業大学梅田キャンパス〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者数：13,172 人 (10月 1日～14日) 〔大阪府立中央図書館〕 ・来場者数：32,968 人 (10月 16日～11月 7日) <p>○収蔵作品を活用した展覧会の開催については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「enoco おしゃべり美術館」ほか計 3 回 ・来場者総数 3,092 人 <p>○大阪文化芸術フェスとの連携事業の実施については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20 世紀関西の広告文化を個性的な雑誌を通して考察する展覧会の開催 (10月 2日～13日) ・来場者数 789 人
30年 4月～11月	事業企画・設計									
30年 11月～31年 2月	工事									
30年 12月～31年 3月	休館									
31年 4月	リニューアルオープン									

<p>(スケジュール) 通年 クリエイター等への交流の場の提供 ワークショップ等の実施 30年8月、10月、31年1月 収蔵作品を活用した展覧会の実施 30年10月 大阪文化芸術フェスとの連携事業の実施</p>	<p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・府の収蔵作品の活用、クリエイターや府民の交流・活動場所の提供、アートやデザイン等の手法を活用した課題解決支援等を行うことで、enoco の魅力向上や利用者数の増加を図る</p> <p>(数値目標) ・年間来館者数：延べ 155,000 人 (平成 29 年度：145,331 人)</p> <p>※参考 補正実施後の H29 年度推計値：延べ 87,199 人</p>	<p>○地下のフリースペースを活用した交流事業等の実施については ・1月19日にオープンしたカフェにおいて、フォーラム等の交流事業を実施(2月：2回、3月：1回)</p> <p>○ワークショップ等の実施については ・子どもや大人、クリエイター・アーティスト向けの教育講座「enocoの学校」の開催(計23回)</p> <p>○年間来館者数：延べ 166,804 人 ※センサーの設置不具合による補正実施後の推計値：延べ 100,082 人</p>
---	---	--

世界有数の国際都市を目指した受入環境の整備

<今年度何をするか(取組の内容、手法・スケジュール)>	<何をどのような状態にするか(目標)>	<進捗状況(H31.3月末時点)>
<p>■旅行者の利便性向上 ◆Osaka Free Wi-Fi の設置促進 ・外国人旅行者からのニーズが高い通信環境の整備を促進するため、観光コース等を中心とした地域・エリアのWi-Fi環境を集中的に整備を支援する</p> <p>(スケジュール) 30年4月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付 ※30年度は随時応募を受付</p> <p>◆大阪・梅田駅周辺のサイン整備 ・大阪・梅田駅周辺において、共通ルールに基づくサイン整備を行うことにより、来阪者、特に急増する外国人旅行者の周遊性・利便性向上を図る</p> <p>(スケジュール) 30年4月 「大阪・梅田駅周辺サイン整備検討協議会」の立上げ、共通ルールの検討</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット) ・Wi-Fi 拠点の拡大促進のための補助を実施 ・26 事業への補助 (平成 29 年度：17 事業)</p> <p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度の向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p> <p>◇活動指標 (アウトプット) ・大阪・梅田駅周辺サイン整備に係る補助制度の創設</p> <p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・主要ルートにおける共通サインの整備(～2022年まで)</p>	<p>○事業数としては目標を下回った(9市町の18事業)ものの、大規模なWi-Fi拠点整備(海遊館など)に対して補助を実施できたため、通信環境が向上した</p> <p>○「大阪・梅田駅周辺サイン整備検討協議会」を設置し、駅や近隣の集客施設の案内表示等に関する共通ルールを策定した(7月)</p> <p>○「大阪・梅田駅周辺サイン整備事業補助金」を創設(6月)し、サイン改修等を行う3事業者に対して補助を実施した</p>

<p>30年 7月 共通ルールの策定 30年 9月～ サイン整備事業の実施</p>		
<p>■観光案内機能の強化 ◆「トラベルサービスセンター大阪」の運営 ・来阪旅行者の多様化するニーズに応えるため、民間が実施するサービスと連携し、観光案内のみならず旅行時のトラブルにも対応する等、旅行者の利便性向上と安心・安全をワンストップで提供する</p> <p>◆案内表示の多言語化の推進（市町村観光振興・宿泊施設補助・ストーリー補助等） ・《市町村観光振興》 多言語による観光案内板の設置・改修をはじめ、公衆トイレの整備等、市町村が実施する旅行者の受入環境整備事業を支援する</p> <p>（スケジュール） 30年 4月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付 ※30年度は随時応募を受付</p> <p>・《宿泊施設補助》 多言語による案内板の設置・改修をはじめ、ホームページの多言語化や Wi-Fi 環境の整備等、宿泊施設が実施する旅行者の受入環境整備事業を支援する</p> <p>（スケジュール） 30年 5月 補助要綱改正・公募にかかる周知</p>	<p>◇活動指標（アウトプット） ・「トラベルサービスセンター大阪」の円滑な運営</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標） ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度の向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p> <p>（数値目標） ・利用者満足度：95%以上（平成29年度：93%）</p> <p>◇活動指標（アウトプット） ・市町村における受入環境整備のための補助の実施 ・30事業への補助（平成29年度：18事業）</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的目標） ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度の向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p> <p>◇活動指標（アウトプット） ・宿泊施設における受入環境整備のための補助の実施 ・30施設に補助（平成29年度：30施設）</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的目標） ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度の向上</p>	<p>○JR 大阪駅構内の「トラベルサービスセンター大阪」において、旅行者のための総合案内を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用人数（4-2月） 日本人 131,845人 外国人 136,529人 ・利用件数（4-2月） 日本人 211,511件 外国人 261,497件 <p>利用者満足度：97%（平成30年度）</p> <p>《市町村観光振興補助》 ○10市町村の18事業に対して、補助を実施した ○補助対象を拡充し、観光案内所の新設や観光バス駐車場の整備に対する支援を行った</p> <p>《宿泊施設補助》 ○宿泊施設13施設に対して、補助を実施した</p> <p>○トイレの洋式化などの大規模事業（ホテルニューオータニなど）に対して補助を実施できたため、宿泊施設における受入環境の向上が図られた</p>

<p>30年6月～ 公募開始、補助対象施設の決定、補助金の交付</p> <p>・《大阪ストーリープロジェクト事業》 大阪の魅力スポットやそれらを巡るルート等にストーリー性を持たせた地域における観光資源の磨き上げを図るとともに、国内外から注目されるストーリーを創出し、観光客誘客の促進、地域の魅力あるまちづくりの促進を図る</p> <p>(スケジュール) 30年 7月末 補助事業の公募、決定 31年 3月末 補助事業完了</p>	<p>を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p> <p>◇活動指標 (アウトプット) ・地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等に対し、補助を実施 ・府域の観光コースとして PR を実施</p> <p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・国内外からの集客・周遊性の向上を図るとともに、府内全域への誘客をうながす</p> <p>(数値目標) ・継続して取り組むストーリー：補助事業者が掲げる目標数値を達成した事業の割合 70%以上 ・新たに構築するストーリー数：2ストーリー以上</p>	<p>《大阪ストーリープロジェクト事業》</p> <p>○府域への誘客のため、魅力づくりや受入環境整備にかかる取組みを支援する「大阪ストーリープロジェクト事業補助金」は4市2団体に対して補助事業を実施</p> <p>○「DISCOVER OSAKA」(再掲)にストーリープロジェクトで磨き上げたスポットの情報を盛り込むことで、インバウンドをはじめとする来阪者に発信</p> <p>・既存ストーリー：補助事業者が掲げる目標数値を達成した事業の割合 27% ・新たに構築したストーリー数：1ストーリー</p>
<p>■インバウンド (外国人) 受入環境の整備 ◆外国人が安心して過ごせる環境の整備 (多文化共生社会をめざす取組み)</p> <p>・多文化共生社会の方向性を示すとともに、大阪府国際交流財団において、外国人相談や災害時における支援強化の取組みを実践する等、外国人が安心して過ごせる社会の実現に取り組む</p> <p>(スケジュール) 30年5～6月 庁内及び市町村向け会議で多文化共生関連施策の説明 30年 7月 市町村等と「やさしい日本語」に関するネットワーク会議を立上げ 30年 8月 多文化共生社会の方向性を示す</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット) ・多文化共生社会の方向性を示す ・大阪府国際交流財団と連携して多文化共生施策に取り組む</p>	<p>○多文化共生の取組みの方向性を整理するとともに、多文化共生の拠点機関をめざす大阪府国際交流財団 (OFIX) において、やさしい日本語ネットワーク会議の設置等に取り組んだ</p> <p>○外国人が安心して暮らすことができる一層の環境整備を図るため、外国人相談や災害時多言語支援の強化を OFIX の次年度事業計画に位置付けた (3月)</p> <p>○OFIX が実施する外国人相談について、入管法改正に伴う国の交付金を活用し、相談室の増設など機能の充実を図った (3月)</p> <p>○6月の大阪北部地震や9月の台風の際に、府と OFIX による災害時多言語支援センターの設置、多言語での情報発信や相談対応、市町村への多言語支援を行っ</p>

◆外国人旅行者の安全確保

・来阪外国人旅行者が急増する中、「新・大阪府地震災害アクションプラン（平成 27 年 3 月策定）」に基づき、外国人旅行者の安全確保に向け、情報提供の強化とともに、現場における支援体制の構築を図る

（スケジュール）

通 年 緊急時お役立ち情報ポータルサイトの周知
 30 年 5 月～「外国人旅行者の安全確保・帰国支援に関するガイドライン」の配布
 30 年 8 月頃～市町村及び観光関連事業者に対する説明会の開催（府内 3 エリア）

◆市町村における外国人への災害時多言語支援

・外国人が災害時も安心できる環境を整備するため、市町村での災害時多言語ボランティアの確保を支援するとともに、大阪府国際交流財団が実施するボランティア研修等と連携し、市町村における災害時多言語支援体制の充実を図る

（スケジュール）

30 年 7 月～市町村災害時多言語ボランティア確保支援事業の実施
 30 年 11 月 市町村災害時ボランティア研修の実施

◇活動指標（アウトプット）

・府内観光案内所等で緊急時お役立ち情報ポータルサイトの広報カードを配布

・市町村及び観光関連事業者に対して、「支援フロー（案）」、「ガイドライン」の周知啓発を実施

◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

・災害情報を入手しやすい仕組みづくりとともに、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす

◇活動指標（アウトプット）

・5 市町村において災害時多言語ボランティア確保支援事業を実施

◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

・外国人が災害時も安心できる環境を整備する（数値目標）
 ・5 市町村において災害時多言語ボランティア制度を創設

た

○緊急時に役立つ情報を掲載したポータルサイトの周知促進のため、広報カードを府内の観光案内所等で配布した

○大阪府北部地震（6 月）や台風 21 号（9 月）の際に、大阪観光局や大阪府国際交流財団をはじめとする各関係機関と連携し、交通機関の状況等、外国人旅行者に対する各種情報発信や相談対応を実施した

○「ガイドライン」について、大阪北部地震を踏まえ、災害情報等の入手や伝達に関する手法の充実を図るなどの改訂を行い（12 月）、公表した

○大阪府ホームページについて、12 言語に翻訳できる機能を導入するとともに、災害時にはトップページを切り替え、災害関連に特化した情報を提供できるよう見直しを行った（12 月）

○市町村災害時多言語ボランティア確保支援事業を活用し、4 市においてボランティア制度が創設され、新たに 86 人のボランティアを確保した（H30 年度末時点：ボランティア総計 332 人（9 市））

○府、OFIX、関西大学で災害時多言語ボランティア確保に関する協定を締結し、大学の留学生等のボランティア参画促進など、地域における多言語支援の強化を図った（3 月）

<p>◆適法民泊施設の普及促進に向けた取組み</p> <p>・適法民泊の普及促進のため、特区民泊（*17）の認定を受けようとする事業者等への支援とあわせて、府内の保健所設置市が実施する民泊対策を支援する</p> <p>(スケジュール) <宿泊施設おもてなし環境整備促進事業費補助金、民泊対策事業補助金> 30年5月 補助要綱策定 30年6月～公募開始、補助対象施設（市）の決定、補助金の交付</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・特区民泊の認定を受けようとする事業者等に対して必要となる設備の整備等に対する補助を実施 60施設に補助（平成29年度：67施設）</p> <p>・保健所設置市が行う違法民泊対策のための取組みに対する補助制度を創設</p> <p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度の向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p>	<p>○特区民泊施設 47施設に対して、補助を実施するとともに、「民泊対策推進事業費補助金」を創設（6月）し、保健所設置市（1市：大阪市）に対して補助を実施した</p> <p>○「大阪市民泊適正化連絡会議」に参画し、適法民泊への誘導に取り組んだ</p> <p>・違法民泊の適正化件数（6～2月） 4,203件</p>
--	---	--

大阪の国際化の推進

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（H31.3月末時点）>
<p>■世界から外国人留学生等優れた人材を呼び込む</p> <p>・インドネシアに開設している大阪留学のPR・相談窓口を活用し、留学情報を発信することにより留学生の増加につなげる</p> <p>・大学や経済団体等との連携により、留学生の就職支援(*18)を実施し、優れた外国人材を大阪に定着させる</p> <p>(スケジュール) 30年6月～9月 留学生への就職講座・企業見学会(8回)</p>	<p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・外国人留学生等優れた人材の受入れを拡大する</p> <p>（数値目標）</p> <p>・府内外国人留学生の増加 29年度比 3,500人増（平成28年度 18,411人→平成29年度 21,683人（3,272人増））</p>	<p>○インドネシアに設置している大阪への留学相談窓口において相談を実施するとともに、ウェブサイト等により留学情報の発信を行った</p> <p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口利用件数：47件 ・H30年度府内留学生数：24,751人（平成29年度比 3,068人増） （参考）「大阪都市魅力創造戦略2020」における KPI：23,000人 <p>○留学生の就職支援を図るため、就職対策講座や企業見学会を実施した（6～9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職対策講座 8回、66人参加 ・企業見学会 8回、65人参加
<p>■世界で活躍するグローバル人材を育てる</p> <p>・おおさかグローバル塾(*19)により、海外の大学での学位取得を目指す大阪の高校生を支援する</p> <p>・グローバル体験プログラム(*20)の参加をきっかけに、外国人に対する英語でのコミュニケーション感覚・能力の必要性</p>	<p>◇成果指標（アウトカム） （定性的な目標）</p> <p>・世界で通用するグローバル人材の育成</p> <p>・グローバルな視野をもった若者の育成</p>	<p>○海外留学支援などグローバル人材の育成を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおさかグローバル塾を実施（5月～2月） 受講生(40人)全員が修了 海外進学レベルの英語力を習得した割合:45%

<p>に気付かせ、海外に興味を持つ若者の裾野を広げる</p> <p>(スケジュール)</p> <p>30年5月～31年2月 おおさかグローバル塾の実施 (8/4～8/13 英国リーズ大学へ短期留学)</p> <p>30年5月～31年2月 グローバル体験プログラムの実施</p>	<p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおさかグローバル塾修了者のうち 海外進学レベルの英語力の習得：90%以上 (平成29年度：68%) ・グローバル体験プログラム参加者のうち 英語の習得意欲が高まった割合：95%以上 (平成29年度：96%) 海外に対する関心が高まった割合：95%以上 (平成29年度：98%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル体験プログラムを実施(5月～翌年2月) 中高生2,326人が参加 英語の習得意欲が高まった割合：94% 海外に対する関心が高まった割合：96%
<p>■外国公館を活用した国際交流機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在関西総領事館等との定期的な意見交換等の機会を通じ、国際交流機能の強化を図るとともに、大阪の魅力を発信する <p>(スケジュール)</p> <p>30年6月頃 在関西総領事館向け施設見学</p> <p>30年11月頃 在関西総領事館との意見交換会</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在関西総領事館との意見交換会の実施 <p>◇成果指標(アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在関西総領事館との交流機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○在関西総領事を対象に都市魅力や防災をテーマに意見交換会を大阪市と共催で実施(1月) ・総領事等16カ国22名参加 ○総領事館の実務担当者を対象に防災に関する勉強会を実施(3月)